

《平成30年度 自己評価表を公表します》

ほっとハウス放課後等デイサービスでは、提供するサービスの質について、職員が評価・点検を行いました。

自己評価の結果を踏まえ、支援内容の改善を図るべく自己評価の内容を公表いたします。

①活動プログラムについては、個別支援計画に基づき、体調に配慮しながら様々な経験ができるように支援していきます。

②家庭や学校と情報交換を図り、共有しながら支援に努めていきます。

③各種研修に積極的に参加し、職員の資質の向上に努めます。

利用される皆様に安心して楽しく過ごしていただけるように、上記の事項を中心に取り組み、支援の質の向上に努めていきます。

☆平成30年度 放課後等デイサービス自己評価表《事業者等向け》

		チェック項目	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等のスペースとの関係で適切であるか	活動内容や利用者状況に合わせて、園内の空間を利用するなどの工夫をしています。
	②	職員の配置数は適切であるか	適切に配置されています。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	バリアフリーに配慮されています。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	マニュアルを整備し、月1回の会議等を通して業務の見直し、改善に努めています。
	⑤	保護者向けの評価票を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	保護者向け評価票の結果を参考にして業務の改善に努めています。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	ホームページで公表を行っています。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	第三者による外部評価は実施していませんが、秋田県による実地指導、法人が行う内部監査等を通じて業務改善に繋げています。
業務改善	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	園内外の研修に参加し、職員の資質の向上に努めています。

適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	アセスメント、モニタリングや検討会議を通して、サービス計画を作成しています。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	統一されたアセスメント票を活用しています。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	活動内容の立案については、職員間で話し合いながら行っています。
	⑫	活動プログラムが固定化されないよう工夫しているか	週替わりの活動を基本としながら、その日の子どもの状態に応じた活動を提供しています。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	生活介護事業利用者と一緒に集団活動や個別活動等を取り入れながら支援をしています。放課後は利用者の状態や活動時間に合わせ、調整しながら支援を行っています。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	子どもの状況を考慮しながら、個別活動と集団活動を組み合わせ行っています。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	当日の利用状況、活動内容、家族への連絡事項等、適宜に打ち合わせを行っています。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	支援終了後には子どもの活動状況等について再確認し、気付いた点等について情報交換し共有に努めています。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	個別支援計画の内容に沿った活動を支援し記録をとり支援の検証・改善に繋がっています。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	マニュアルに沿って見直しを行っています。
関係機関や保護者との連携	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	自立支援のための活動や創作活動等は行っていますが、地域交流の支援は行っていません。
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	相談支援専門員が参加しています。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	下校時に担任教諭から本人の状況について情報交換しています。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	主治医との連絡体制を整えています。また喀痰吸引等業務については、看護師と連携しながら、医師からの指示書に基づいて実施し、実施状況について報告しています。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	相談支援専門員から情報提供を受けています。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	保護者の同意を得てから行っています。

関係機関や保護者との連携	②5	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	理学療法を年に6回実施し、利用時に実施した場合は、療法士より助言を受けています。音楽療法は毎月1回実施しています。
	②6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	交流する機会を設けていません。
	②7	(地域自立支援)協議会等への積極的に参加しているか	相談支援専門員が参加しています。
	②8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	利用する際は本人の状況について家庭より情報を得て、帰宅時には利用状況について随時報告しています。また、連絡帳も活用しながら、家庭との情報交換を図っています。
	②9	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	ペアレント・トレーニングは行っていませんが、保護者との情報交換は日常的に行っています。保護者の話を傾聴し、必要に応じて助言を行ったりしています。
保護者への説明責任等	③0	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	重要事項説明書等を通して丁寧な説明に努めています。
	③1	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	保護者との情報交換は日常的に行っています。相談については、必要に応じて助言し、支援に努めています。
	③2	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	父母の会の活動支援等は行っていません。
	③3	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	苦情相談のしくみは整備しており、今までに苦情等はありません。
	③4	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	ほっとハウスのお便りを発行しています。
	③5	個人情報に十分注意しているか	配慮して対応しています。
	③6	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	家族と情報交換を図りながら、子どもの思いをくみ取れるよう配慮しています。
	③7	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	園として行っています。
非常時等の対応	③8	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	保護者へ緊急時対応マニュアル等について説明を行いました。職員にもマニュアルを整備し周知に努めています。
	③9	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	園で毎月避難訓練を実施しています。利用時に実施した場合は体調等を考慮しながら参加を促します。
	④0	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	虐待防止のため、虐待防止チェックリストの実施、虐待防止研修等を実施しています。

非常時等の対応	④1	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	利用者の大半が車椅子を使用しており、危険防止のための安全ベルトが不可欠な状態ですが、保護者に事前に説明し、了承を得た上で個別支援計画に明記し支援を行っています。
	④2	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	現在、対象者はいませんが、配慮して対応することは可能です。
	④3	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	ヒヤリ・ハットについては、所定の様式により、情報の共有が図られています。